



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No. 141

2010(平成22)年8月9日(月)発行



＜1945年のこの日、米軍は2発目の原子爆弾「ファットマン」を長崎に投下＞
 ●8月9日午前2時49分、原爆搭載機ボックスカー号は、広島に次ぐ目標都市北九州の小倉をめざしてテニアン基地を出発。ボックスカーは予定通り小倉上空に到着したが、雲がかかっているため目標を捜すのに3回も旋回したが視認できず、燃料不足を考慮してついに小倉を断念。第2目標の長崎攻撃に転じる。●ボックスカーは小倉から南下し、遠回りして熊本方面から島原半島を経て長崎に向かい、10時58分長崎上空に達した。雲量8で視界は悪く、ビーハーン爆撃手はレーダーによる投下の準備にかかる。がその時、雲間から「長崎製鋼所」を発見。すばやく投弾ボタンを押した。11時2分爆発。機は反転し東方に向かって脱出、沖縄に向かった。●午後1時沖縄着陸。残り燃料はわずか数ガロンであった。(昭和53年・長崎市発行『ながさき 原爆の記録』より)

県立長崎中学校に入学

私が長崎で原爆を体験したのは十五歳、旧制中学三年生の時でした。その前、私は父の勤務地の台湾にいたのですが、どうも台湾の気候が私にはあわないようで、小児ぜんそくにかかっていたのです。それで、家族と別れて私一人が、父の出身地の長崎へ昭和十七年に移り、一年やり直して、県立長崎中学校に入学しました。

上級生のいじめがひどい

はじめ学校の寮に入ったのですが、そのころのことですから、先輩の上級生が私たち下級生をひどくいじめるのです。言葉づかいが悪いとか、態度がどうのと殴られるわけです。土曜日の夜は特にひどかったです。軍隊の悪い面をそのまま、マネしてるとですね。宿舎に二年の時までいましたが、そんな宿舎生活をかわいそうに思ってくれた父の知人が、その後私を引き受けてくれて、私は長崎市の南の方の中川町に下宿して住むことになりました。

教室は工場に変わってしまい
 中学校の正式な授業はそのころは



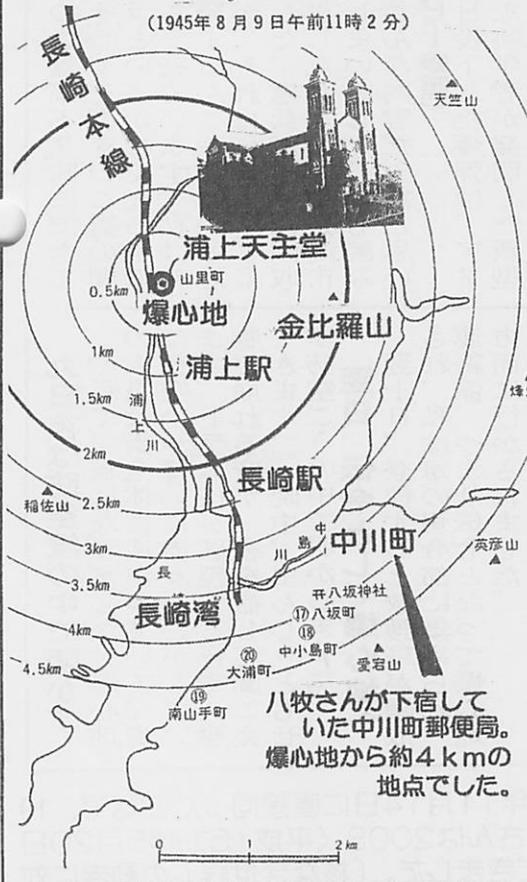
「あつ、目がつぶれた！私に落ちたのか」 十五歳、父の故郷の長崎で被爆 前編

南相馬市原町区旭町 八牧将勝 (故人)

すでになくなっていて、毎日学徒動員の作業をさせられていました。中学校の校舎を工場に改造し、三菱造船から機械を持ち込んで、「ナ」(まろ)工場と呼ばれていました。各種旋盤、スライス盤、ボール盤などがしつけられ、かつての教室は、油と鉄くずの匂いが充満していました。その中で私はターレット旋盤を動かして、新しく動員されてきた下級生の指導にあたっていました。「鋸(びょう)を作るのですが、何の部品かは知らされていません。あと

長崎の被爆地図

(1945年8月9日午前11時2分)



で考えると、特攻艇の鋸のようでした。今でも旋盤を見るとなつかしいのか、当時が思い出されます。昭和二十年八月九日、昼寝中に「B29一機が島原半島を西北進中」昭和二〇年八月九日、その日は三交替の夜勤でしたので、私は下宿していた中川町郵便局の二階で昼寝をしていました。十二時前、下の郵便局で鳴らしていたラジオが、「警戒警報発令、B29一機が島原半島を西北進中」と何回もくり返し告げていました。私は「またか、たいしたことではないな」と思っていました。もうすでに私の耳にはいつも聞きなれたB29の爆音が「ウォーン、ウォーン」と聞こえてきました。私は立ち上がって窓の方へ見に行きました。空を見た瞬間、ピカッとものすごい閃光が眼前いっぱいに広がりました。(裏面につづく)

